

特定失踪者 徹底調査を

救う会・群馬が県警に要望書

拉致問題の再調査に関する日朝合意を受け、北朝鮮

拉致被害者・家族の支援組織「救う会・群馬」は4日、県内の特定失踪者に関する徹底した調査などを求める要望書を県警に提出した。

要望書では「特定失踪者の関係者、職場での同僚、友人、趣味などで親しくしていた方々の調査などにより、北朝鮮による拉致以外に考えられない事実の実証を「努力お願いしたい」と

した。

救う会・群馬によると、提出と併せて、前橋出身で埼玉県川口市内で失踪した井上克美さんについて、埼玉県警と共同で調査を進められないか質問。県警からは「埼玉県警と連携を図っている。共にやっているの

で心配しないしてほしい」との回答があったという。救う会・群馬の大野敏雄事務局長は「今回の再調査で、かなり特定失踪者が出

てくるのではないかと期待しつつ、できるだけだけの活動を継続していきたい。失踪者の「家族が生きているうちに解決を果たせれば」と話した。

特定失踪者 捜査を要望

県警に「救う会」

北朝鮮が日本人拉致被害者らについて再調査するとの政府間合意を受け、「救う会・群馬」が4日、県警に「特定失踪者」の捜査を要望した。

警察庁によると、北朝鮮に拉致された可能性が排除できないとして全国の警察が捜査・調査している人は2012年11月時点で8068人。うち群馬県警が主導しているのは男性2人、女性1人。横田道人さん(67)は23歳だった1970年、安中市内で姿を確認されたのを最後に失踪▽加藤(石川)八重子さん(73)は38歳だった78年、群馬町(現高崎市)の自宅から失踪した。

もう一人の男性は家族が情報を非公開にしている。

非公開の男性について、救う会は「北朝鮮から何らかの発表があった際に不利益がある

のでは」と質問。県警側は「公開・非公開にかかわらず等しく捜査・調査しているの

配ない」と回答したという。県警によると、仮に北朝鮮側から「遺骨」などが提出された場合に備え、3人のDNA採取は完了している。家族が前橋市に住む井上克美さん(69)は21歳だった71年、埼玉県川口市から失踪し、埼玉県警が調べている。

救う会・群馬の大野敏雄事務局長は「県警はしっかりと捜査・調査を継続してくれていると感じた」と述べた。

【尾崎修二】